

「STEP～一人ひとりの歩幅で～」

第70回松本中学校体育祭

体育祭指導委員長 桐生 真衣

5月17日(水)に体育祭が行われました。

体育祭当日は、天候に恵まれ予定通りのプログラムを実施することができました。5月1日から体育祭への取り組みがはじまりました。本番に向けての学年練習、Mの時間での練習、クラスでの作戦会議、みんながクラスでの目標に向かって、駆け抜けた半月間でした。個人の気持ち、クラスでの目標、様々な人への思いやりをもって活動できたのではないかと思います。本番、自分のクラスだけでなく、他のクラスや学年が競技をしている際も応援の音が鳴りやまない素晴らしい雰囲気、クラスや学年を超えて、仲間と喜びを分かち合っている姿を見て、とても素敵な体育祭になったな、大成功だなと感じました。また、今年度の体育祭は、「STEP～一人ひとりの歩幅で～」というスローガンを掲げ、開催しました。このスローガンには①一人ひとり歩幅は違うけど、認め合い協力し合う。②体育祭までにMの時間や、さまざまな時間でSTEPを踏んでいく中で楽しさや達成感などを味わってほしい。③今年度最初の行事が体育祭なので、クラスが団結する最初のSTEPになってほしい。という、3つの意味が込められています。たくさんの方の笑顔や素敵なおところを見ることができました。スローガンを十分に達成したとてもよい体育祭になったと思います。



松本中学校にさらに笑顔が溢れ、みんなが安心して過ごせる学校に向けて、今回の体育祭で得た「仲間を思いやる気持ち」を大切に、今後の学校生活に活かしていきましょう。

最後に、地域のみなさま、保護者のみなさま、体育祭に向けて様々な部分で支えて頂き、感謝しております。ご協力ありがとうございました。

【7月の行事予定】

日	曜	行事	日	曜	行事
1	土		17	月	海の日
2	日		18	火	
3	月		19	水	大掃除
4	火	第2回学校運営協議会(三ツ沢小)	20	木	地区別生徒会/1学期終業式/夏祭り集会/一斉下校12:00
5	水		21	金	
6	木		22	土	
7	金		23	日	
8	土		24	月	
9	日		25	火	
10	月	三者面談(13:45~17:00)/総下校15:30	26	水	
11	火	三者面談(13:45~17:00)/総下校15:30	27	木	
12	水	三者面談(13:45~17:00)/総下校15:30	28	金	
13	木	三者面談(13:45~17:00)/総下校15:30	29	土	
14	金	三者面談(13:45~17:00)/総下校15:30	30	日	
15	土		31	月	
16	日				

夏季休業
7/21~8/25
学校閉庁日
8/8~8/15



人の心を動かす「言葉」とは

校長 間邊 浩二

突然ですが、1から 10 までの数字を1つ頭に思い浮かべてください。どんな数字を思い浮かべましたか。この一見単純な質問ですが、集計をとると意外な結果が出るのです。思い描く数字は、偶数よりも奇数の方が多くなるのです。確率的に考えれば、奇数も偶数も同じ確率で 50%になるはずですが、実際には偶数を思い浮かべる人は 20%しかいないのだそうです。

それでは、次のような状況ではいかがでしょうか。

「先ほど思い浮かべた数字が、もし偶数だったら 500 円差し上げます。あなたが思い浮かべた数字はいくつですか。」

このことについて、カリフォルニア大学のブライアン博士が発表した集計データによると、偶数は 50%になりました。本当は奇数を思い浮かべたのにウソをつく人が 30%もいることになりました。

ブライアン博士らは、ウソの申告をできるだけ抑えるためには、どのように忠告したらよいか考えました。そして、次の2つの声かけを試みることにしました。

A グループには「ウソをつかないで」

B グループには「ウソつきにならないで」と、それぞれに声をかけました。

さて、効果があったのは A と B のどちらでしょうか。どちらの表現が、より心に響いたかを考えればわかりますね。答えは B です。「ウソつきにならないで」といわれた方が効果があるのです。実際、グループ B では、偶数を申告した割合は 20%まで下がりました。つまりウソをつく人は、ほぼゼロになったのです。一方、グループ A では 50%のままでした。

改めてこの問題を整理してみましょう。A「ウソをつかないで」では、「ウソをつく」という「行動」にのみ伝えていますが、B「ウソつきにならないで」は「人格」そのものに触れています。だから心に響き、届くのです。

この話は、脳科学者の池谷裕二いけがやゆうじさんが書いた「脳はなにげに不公平」という本で紹介されていました。その中で、ブライアン博士らは選挙でも同様な現象がみられることを報告しています。「投票は大切です」よりも「投票者としての振る舞いは大切です」と言った方が投票率が高くなったそうです。

この効果は、教育現場はもちろん様々な研修や講習会などでも応用ができています。以下は著者の池谷裕二さんが考えた応用例です。「裏切らないで」より「裏切り者にならないで」。「いつも笑って」より「にこやかな人になって」。「私の状況を理解して」より「私のよい理解者になって」。「泣かないで」より「泣き虫にならないで」。このように具体的な例がいくつも浮かんでいきます。人の心を動かす「言葉」とは、相手の「人格」に届き、心を揺さぶる「言葉」ということができそうですね。



雨にもマケズ！

1 学年主任 首藤 郁子

5月23日、緑学年初の校外行事「マザー牧場」へ行ってきました。

緑学年の目標は「メリハリ～みんなのために、自分のために」。前日の結団式では各係の代表の生徒が係の仕事内容や、みんなに心がけて欲しいことなど話をしてくれました。その後、評議委員による整列と点呼の練習、そして、学年が団結するためのミニゲーム。すべて生徒たちの力で進行し、学年のみんなで協力できた、一年生とは思えないようなすばらしい会になりました。

当日は雨の中でしたが元気に出発！レク係が準備をしたバスレクで盛り上がり、デイキャンプ場に到着。インストラクターさんの指示のもと、「カレー作り」が始まりました。マッチの火がなかなか薪に燃え移らずに苦戦したり、煙で目が痛くなったり、それでも協力しておいしいカレーができあがりました。「1人一合」のごはんを食べきれぬのかと心配していましたが、むしろ足りないくらい！もりもりと元気にいただきました。



ごはんのあとはオリエンテーリング。雨がそろそろ上がるかと期待していましたが、強くなるばかり。丘の上のマザー牧場は風が強く、傘をさすのも難しい中で、班のメンバーと声をかけ合いながらポイントを見つ



け、写真を撮りました。下見で回ったときは、ポイントを探すのがなかなか難しかったので心配していましたが、次々に見つけて移動していく班がたくさんあって感心しました。途中でみつけた植物や動物の写真を撮ることも忘れず、しっかりと事後学習の準備もしていました。小さなかわいい「かえる」と遊んでいた班もありましたね。

お天気に恵まれなかったことは残念でしたが、雨にも負けず、風にも負けず、仲間と協力して楽しく活動するたくましい姿をたくさん見ることができました。今後も緑学年のパワーを集結してみんなで成長していきましょう。

2年 自然教室

2学年主任 先崎 究

ちょうど梅雨入りが発表され、雨がとても心配な中、当日を迎えました。子どもたちの日頃の行いがいいからか、文句のない晴天で松本中学校を出発することができました。

鳴沢氷穴では、幻想的な気分を味わい、カヌー体験、樹海ハイキングの準備し、いざ体験。樹海ハイキングでは、溶岩の上に根をむき出しにした樹木、樹海にしかない植物や樹海に至る経緯などの説明をきき、身近にない風景の中をゆっくりとハイキングすることができました。



カヌー体験では、多くの生徒がカヌー初体験の中、西湖を縦横無尽に漕ぎまわり、楽しむことができました。日常生活では味わえない感覚に、感動する生徒をたくさん見ることができました。カレー作りでは、いろいろな宿を回って様子を見ましたが、みんな自分たちで作ったカレーが一番おいしいと口をそろえて言っていて愛らしさを感じました。

キャンプファイアーは実行委員が考えた、レクをみんなで楽しむことができました。特にジャンボリーミッキーという出し物が大人気で、3回もアンコールを受けてみんなへとへとなりながらもとても楽しい時間を過ごすことができました。





2日目はほうとうつくりと牧場(酪農)体験を行いました。牧場へ移動し、「酪農の話」「乳しぼり」「牛の餌やり」「バターづくり」「食育・命の尊さの話」の講義を受けました。初めは嗅ぎなれないにおいや触れたことのない大きな牛に戸惑っている生徒も多かったのですが、次第に環境に慣れていき、両手で餌をすくい牛の口元へ運んで餌やりしたり、乳しぼりされている牛をなでたりと、コミュニケーションを楽しむ姿を目にすることができました。また、生クリームをシェイクしてバターを作り、パンに付けて食べたり、映像で子牛の出産シーンを見て命の尊さについて考えたりと、貴重な体験をすることができました。その後、作ったほうとうを宿の方に煮込んでもらっているので、それをいただきます。



やはり、「自分たちで作る食事は最高」みんなおいしくいただきました。

予定を組んでいる段階で、少し予定を詰めすぎて、忙しい行程ではないかと心配していたのですが、生徒たちがとても協力的で、しっかりと自分たちのやるべきことを把握して動いてくれたので、予定よりも早くすべての行程を実施できました。また、安全にも十分に配慮しながら全力で楽しむ姿をたくさん見ることができたので、とても満足しています。

来年度は修学旅行が控えています。テーマは「平和」なので、また方向性が変わりますが、自然の中でかけがえのない経験をすることができたように、来年度もみんなで協力して素晴らしい思い出をみんなで共有することができればと思っています。

今後も松本中学校2学年をよろしくお願いいたします。

3 学年 修学旅行

3 学年主任 石井 亮

1日目は平和学習でした。雨の中で行われた平和集会は素晴らしい内容でした。言葉が述べられ、平和祈念の千羽鶴が奉納され、平和宣言が述べられました。力強く、気高く、信念がある、心が込められた平和宣言でした。しかしこれを彼女だけの宣言にしてはいけません。彼女の宣言は我々の宣言であり、我々の想いが彼女の宣言なのだ。我々がこの先目指していくものなのだ。

2日目は軍艦島と班別行動。聳え立つ要塞のような雰囲気を感じ出し、戦争を連想させる島、通称「軍艦島」。しかし、実際には戦争は関係なく、炭鉱施設の産業遺産なのだ。かつてはこの島に多くの人が住み、生活していたこと、数々のコミュンが存在していたこと、そしてこの島には生活に必要なすべてが揃っていて、まぎれもなく一つの街だったというのだから不思議である。残念ながら今回は上陸できなかったのだが、周囲を周遊しただけでも十分その威厳を感じることができました。



最終日は長崎の伝統行事「ペーロン」を行いました。レースは1組が勝利し、記念の旗を一本もらいました。しかしみんな勝ち負けよりも大切なものを手に入れた顔をしていて、どの顔も一様に満足げでした。

そんなこんなで約2年かけた一大プロジェクト「修学旅行」は終わりました。しかし修学は終わってはいません。大切なのは修学の過程であるこの「修学旅行」をどう生かすかです。我々はこの修学旅行を通して本当に大きく成長しました。いや、成長しただけではなく、本来持っている力を確認することもできました。忘れていた力やどこかに置いてきていた力を。耳を澄ませると今でも聞こえます。長崎の雨音やペーロンの太鼓の

音、そして波をかき分けて進む軍艦島へ向かうあの船の音が。そして我々は忘れてはならない。あの日行った平和集会を。我々の平和宣言を。…学年通信に続く。

